

令和4年度豊橋市健幸なまちづくり協議会 第2回母子保健推進部会

日時	令和5年2月15日(水) 午後1時30分から午後3時まで
場所	豊橋市保健所・保健センター こども発達センター研修室
議題	豊橋市母子保健推進計画について

議事内容	
議題(1) 豊橋市母子保健推進計画について	
母子保健推進計画の評価	
基本方針1 性や命の大切さを理解し、親となるための準備ができる	
委員A	<p>小学6年生の授業以外で運動する割合が減少していることについて、下校・降園後に家庭で母親と室内で遊ぶことが多く、友人や兄弟と外で遊ぶことが減っていると思われる。静的活動と動的活動が園や学校でバランスが良く行われていても、生活全体で考えるとバランスが悪い。数年前からの傾向のため、小学校6年生の児童に運動する習慣がないことが考えられ、コロナにより加速したのではないか。園や学校での体育的な活動をなるべく意識的に増やすことが必要と考える。</p>
委員B	<p>参考値の未成年者の喫煙割合が改善していることについて、薬剤師会では小学校へたばこの健康教育を行っている。そもそも社会全般的に煙草を吸う場が少なくなっていることが影響しているのではないか。喫煙者がゼロにならないことは残念。</p>
委員C	<p>性感染症はかなり認知されていると思われる。高校生であればスマホ等で検索して知識を得ており、ネットでも性感染症については誤った情報は少ないと思う。妊孕性については、芸能人の高齢妊娠出産が報道されると、高齢妊娠を特別なことではないと傾ってしまう。</p> <p>不妊治療を受ける人は保険適用開始により、若い年齢層が増えている印象。また、不妊治療で妊娠する女性の約6割が体外受精である印象。体外受精自体がいろいろとリスクを抱えているが、年齢が高いとさらにハイリスクになる。また妊娠だけでなく出産時のリスクも高いので、やはり適切な時期に妊娠・出産することが理想と考えている。</p>
委員A	<p>自分のからだを大切にする割合や、親とよく話をする割合が改善傾向にあるが、大学生においても、大学や専攻学科に関わりなく、素直で家族と仲の良い学生が増えている。ある意味、幼さを感じることも多い。コロナ禍で(特に1年目)親の在宅ワークや学生のオンライン授業が増え、一緒にいる時間が増えたことに加え、互いに仕事や授業の様子を見聞きする機会が増え、話すことが増えたのが一因と考える。家族関係としては良い方向にあるのではないか。</p>
事務局	<p>朝食を毎日食べる割合や運動をする割合が減少していることについて、県と市のアンケート結果に違いがあるが、選択肢の違いによるものと</p>

	<p>思われる。</p> <p>朝食を食べない理由について、県では「食欲がない」が一番多い理由として、寝るのが遅いなどの生活習慣が影響していると思われる。しっかり食べている子は食べている。用意されていても食べていないのか、用意もされていないのか。家庭や個人差も大きいと思うため、朝食を食べる児童の割合を上げることは難しいが、これ以上下げないように取り組んでいかなければいけない。</p> <p>スポーツについても同様で個人差が大きくなってきている。「運動している／全く運動していない」の二極化が進んでいると思う。</p>
<p>基本方針2 安心して妊娠・出産ができる</p>	
<p>方針2-1 望んだ妊娠・出産ができる</p>	
委員C	<p>妊娠中の不安の軽減について、妊婦の不安については情報過多からきている可能性はあるだろう。両親との同居などもなく、相談があれば夫かネットから情報を得るしかなく、ネガティブな情報を拾う傾向になる。不妊治療の患者も同じ傾向。知って不安になるため、あまり見ないように勧めている。かかりつけ医や助産師などに相談するよう伝えている。</p>
<p>方針2-2 妊娠・出産を支える力が豊富にある</p>	
委員D	<p>妊娠中に家族から配慮や支援を受けられた割合は上がっている反面、近隣や仲間から配慮や支援を受けられた割合はほぼ半減していることについて、コロナ禍において民生委員主任児童委員による赤ちゃん訪問が停止していた期間があったが、現在は訪問を徐々に再開している。訪問して少しの時間に話すだけでも母の顔がほころぶことがある。『今日、初めて誰かと話した』といわれる方も多く、育児の孤立感を感じることもある。今後は親御さんたちとつながる活動をしていきたい。</p>
<p>基本方針3 いきいきと子育てができ、子どもが健やかに成長できる</p>	
<p><方針3-1 心身ともに健やかに成長し、子育てができる></p>	
委員E	<p>コロナ禍から3年が経過して、「身近で教えてもらえる人がいない」と思いきって来た人から「もっと早く支援センターに来ればよかった」と言う声も聞かれる。</p> <p>妊娠期からの支援としてマタニティサロンを開催しているが、夫婦での参加も増えている。妊娠期から赤ちゃんサロンへ参加していただくこともあり、赤ちゃんに接するイメージが湧きやすくなると思われる。こういった当事者同士のサポートが大切と考えている。</p> <p>低年齢の子どものセンター利用が増えているため、離乳食を中心とした乳幼児期の食生活についての講座を実施し、利用者に参加を促している。職員も最新の情報を得て対応しているが、離乳食やアレルギーなど細かい質問も多く、多岐にわたるため対応に苦慮している。</p>
委員F	<p>妊産婦歯科健診の受診率は少し上がっているが、自身の診療所に来ている妊産婦は少ないので下がっている印象を受ける。</p>

	<p>歯周病に関しては妊産婦に限らず、長いマスク生活で全体的に口腔内環境は悪くなっている。コロナによるマスク生活で小学生のむし歯はこれから悪くなることが想定されている。令和3年度のむし歯のない3歳児の割合は改善していた。これは友達同士でおやつを食べる機会が減り、親の管理下で食事やおやつを口にする事となり、良い結果につながったと考えている。</p>
委員G	<p>休日夜間診療所の認知度はあがっているが、かかりつけ小児科医をもつ1歳6か月児の親の割合は減少している。小児科医の減少や、コロナ禍で発熱など感染症の患者が多く、受診したくても受診できない状況があり、別の医療機関へ受診することもある。それによりかかりつけ医の認識が薄れているのかもしれない。</p>
委員H	<p>共働き家庭が増えて父の帰りが遅い印象だが、積極的に育児をしている3歳児の父親の割合が上がっているのは、父親の育児参加、家族で協力して子育てしていることの表れだと思う。ファミリーサポートセンターでは、相談や依頼する家庭は増えているが、サポート会員は少ないのが現状。今後も人と人とのつながりを大切にして活動していきたい。</p>
委員I	<p>全国の虐待件数は愛知県でも増加の一途にある。法整備の中で『虐待』の認知度が上がったことも要因ではないかと前回の部会で話したところ。</p> <p>コロナ禍のために両方の実家に助けを求められない家庭もあった。また新型コロナウイルス感染症に罹患した状態で出産し、療養期間のため母子分離となり、我が子に会えなかったことは母にとってつらい日々だったと思う。行政にSOSを求めるにもハードルが高く、求められないこともあったと思う。実家に助けを求められないが、最近父親が育児休暇を取得しやすい環境になったこともあり、夫婦で頑張っているような感じを受けている。</p>
委員B	<p>朝食を食べることは栄養バランスや血糖を上げるだけでなく、排便を促すことにつながるため、やはり生活習慣として大切な要素だと思う。</p>

以上